

吉野川講座

Road to 「よいよ吉野川づくり」

いよいよ夏本番！1年の中で一番水辺に行く機会が増える季節になりました。水辺に行く時は、安全対策もしっかりしてくださいね！

さて、前回（Vol.42）は、河川景観や河川空間の利用について紹介しましたが、実は近年、河川空間の利用を通じて地域や観光を盛り上げようとする動きがどんどん活発になっています。今回は、河川管理者、地域住民、民間業者などが一体となり、河川を中心とした地域活性のために行っている取組について学んでいくことにしましょう。



「よいよ吉野川づくり」への道のり



「地域の自然・景観・社会環境に調和し個性ある吉野川の創造」の理念

地域の自然や景観、社会環境に調和した河川空間を創出し、流域住民の積極的な自然活動や環境学習等の利用を促進するための施策を展開する。

（吉野川水系河川整備計画【変更】P97 抜粋）

▶ステージ3：地域の自然・景観・社会環境に調和し
個性ある吉野川の創造

1. 水に親しみやすくするための空間づくり

たくさんの人の憩いの場というと、公園を思い浮かべると思います。まずは、公園の整備により水に親しみやすくした取組について学びましょう。
下の写真は、徳島にある公園ですが、みんなはこのような場所に行ったことがあるかな？また、身近にこのような公園はあるかな？



▲新町川・阿波製紙水際公園（新町川水際公園）
（徳島市）



▲桜づつみ公園（藍住町）

ここはお母さんと出かけた時に
通ったことがあります。
道のすぐ近くに川が流れていて、
歩くのが楽しかったです。



川沿いに桜並木があって、
ステキな場所ですね。
家の近くにあったら毎日散歩
に行きたいです。



上の写真の公園は、どちらも治水機能を持たせつつ、水辺に親しめるような工夫や景観づくりにも配慮して整備されています。
まずは、このような公園の特徴について紹介しましょう。

親水性に配慮した公園

水に親しみやすくすることを「親水性（しんすいせい）」といいます。
親水性に配慮した公園とは、河川や湖沼、海浜などの水辺において、護岸の勾配を緩くする、階段を設置する等の整備により、利用者が安心して水と親しむことができる公園です。



▲今切川水辺プラザ（北島町）



▲江川・鴨島公園（吉野川市）

水際は緩やかな勾配になっているのが親水性に配慮した水辺の特徴なのですね。これならたくさんの人が水辺をより身近に感じることができますね。



桜つつみ公園

桜つつみ公園は、地域を水害から守るための堤防の強化を図りつつ、桜などを植樹して、積極的に良好な水辺空間の形成を図ることを目的として昭和63年より実施している「桜つつみモデル事業」により整備された水辺です。



▲貞光桜つつみ公園（つるぎ町）



▲第十桜つつみ公園（石井町）

水辺にキレイな景色や安心して過ごせる場所があるのは嬉しいですね。



環境への関心の高まりを背景に、水辺空間の利用に関しても様々な取組が行われていて、親水性に配慮した公園や、桜つつみ公園もその一つです。

次は、さらに大きな取組として、地域住民や関係機関と連携し、行っている水辺の整備とまちづくりについて学んでいきましょう！

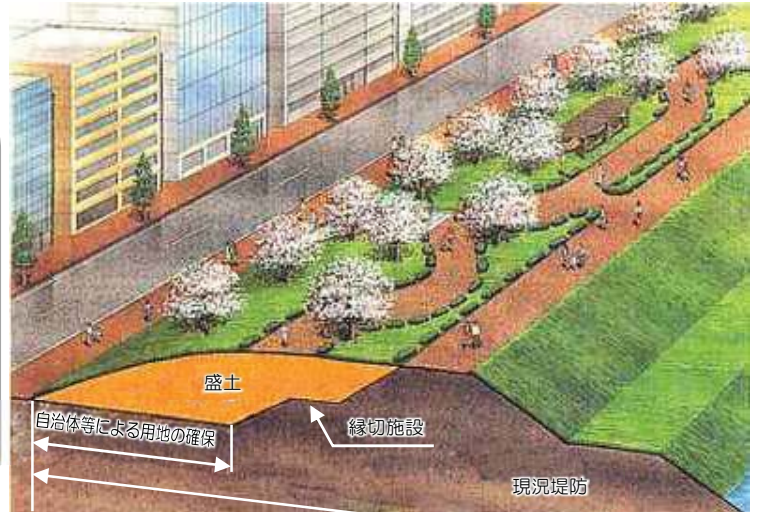


図 1.桜つつみモデル事業イメージ

2. 没個性的な河川整備からの脱却

国土交通省が平成18年10月に公開した、河川景観ガイドライン「河川景観の形成と保全の考え方」の中では、まちづくりと一体となった取組の必要性を以下のように記載しています。（「河川景観の形成と保全の考え方」より一部抜粋）

従来、河川の整備とまちづくりの事業は別々の体系で進められ、もともとその河川が備えている空間構造に応じた河川の利用や景観のあるべき姿と、地域における河川の位置づけや河川への要請とは必ずしも整合・調和せず、結果として良好な河川景観が失われがちであった。

河川の景観は、流域の土地利用のあり方や、河川周辺のまちづくり、人々による河川空間の利用等、流域や地域のあり方に大きな影響を受けている。とりわけ、市街地を流れる中小河川においては、河川景観の中に占める建物や構造物等の割合が高く、河川背後のまちづくりのあり方が、河川景観に与える影響は極めて大きい。

したがって、河川を軸とした良好な景観を形成するためには、河川管理者、地方公共団体、市民、企業等が連携した取り組みを行うことが望ましい。

河川整備 ≠ まちづくり

地域における河川の
役割・景観の不調和

治水、利水等の観点からは、安全で安心できる国民生活の実現に欠かせないものだが、環境に配慮せず、没個性的な川づくりが求められる時代ではない。

川づくりとまちづくりは、みんなで協力しないと
いけないね！



3. 河川空間の整備と適正な利用～かわまちづくり～

「かわまちづくり」とは

市町村や民間事業者、地域住民等と河川管理者が各々の取組を連携することにより「河川空間」と「まち空間」が融合した良好な空間を形成し、河川空間を活かして地域の賑わいを創出することを目標として、国土交通省では、水辺を活かして地域の賑わい創出を目指す取組“かわまちづくり”を推進するため、平成21年度に「かわまちづくり」支援制度を創出し、市町村等からの申請に基づき計画の登録を行い、ハード・ソフト両面から支援を行っています。



＜ソフト対策＞

優良事例等に関する情報提供のほか、河川敷のイベント施設やオープンカフェの設置等、地域のニーズに対応した河川敷地の多様な利用を可能とする「都市・地域再生等利用区域」の指定等を支援

＜ハード対策＞

治水上及び河川利用上の安全・安心に係る河川管理施設の整備を通じ、まちづくりと一体となった水辺整備を支援

＜手続きフロー＞※民間事業者が計画の主体となった場合の流れ



「かわまちづくり」は河川に係わる様々な人の協力なくしては実行できない取組ですね。

たくさんの人の思いがひとつになってできた河川空間は、地域の人たちにとっても、観光に来る人たちにとっても魅力的な場所になりそうですね。



吉野川水系河川整備計画【変更】の中には、「かわまちづくり」によって、子どもたちの河川を利用した環境学習や自然体験学習をサポートする場、各種スポーツやイベントを通じた交流の場など、吉野川の雄大な自然の中で遊び、学び、楽しむことができるような水辺整備を積極的に推進する、と記載しています。実際にどのような整備が進められているのかを見ていきましょう。

4. 吉野川水系における「かわまちづくり」の取組事例

事例 1 内町・新町地区かわまちづくり（新町川～助任川 L=約 6km）

<事業概要>

内町・新町地区かわまちづくりは、護岸修景・遊歩道や、新たな船着場「川の駅」の整備を一体的に実施するとともに、地域資源であるLEDを活用した景観整備により、これまで整備してきた水の魅力に「光」の要素を新たに加えることで、他の都市にはない魅力をもった「水都・とくしま」を創造し、全国に発信するものです。

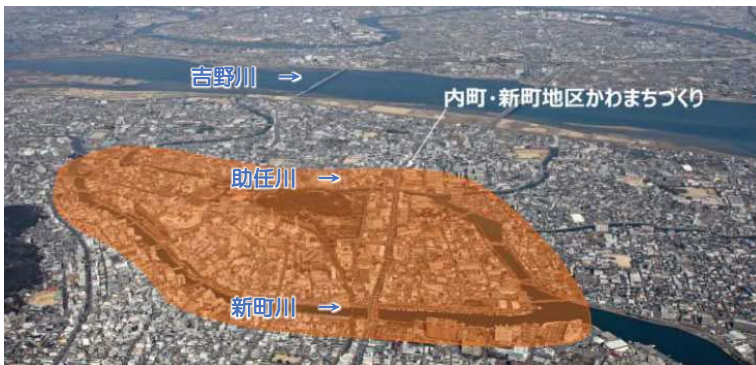
親水公園、ボードウォークが整備された水辺では、マルシェをはじめとした様々なイベントの開催により、多くの県民が集う憩いの場となっています。

<主な整備の内容>

徳島県：河川管理施設整備

徳島市：川の駅（船着き場）、LED景観整備 等

<位置図>



▲ひょうたん島クルーズ発着場



▲LED を活用した景観整備



「内町・新町地区かわまちづくり」活動の主体である NPO 法人新町川を守る会は、1990年3月に発足して以来、川の清掃活動、花植え、水辺のイベント開催等を積極的に行っています。市民の強い思いと行動力が川を大きく変えた事例として広く注目されています。



「内町・新町地区かわまちづくり」が「審査員特別賞2019」を受賞！

地域を流れる川を活かして、賑わいを創出し、他の模範となる先進的な取組を讃えることを目的として、平成30年に創設された国土交通省の「かわまち大賞」において、「内町・新町地区かわまちづくり」は、令和元年12月、審査員特別賞を受賞しました。（Our よしのがわ Vol.34 関連記事）



事例 2 ^{しばう} 芝生地区かわまちづくり（三好市／吉野川左岸 60k 付近）

<事業の概要>

徳島県西部最大の高水敷である立地を最大限に活かし、人々が川に親しみ、川の自然や文化を学ぶ多様な交流拠点とすることを目的とした「かわまちづくり」として2010年度の対象事業に登録されました。

隣接する美馬市の水辺の楽校、四国三郎の郷と一体となったオープンスペースを活かし、多目的広場、遊歩道、駐車場、トイレ施設等の整備を行い、多くの利用者でにぎわっています。

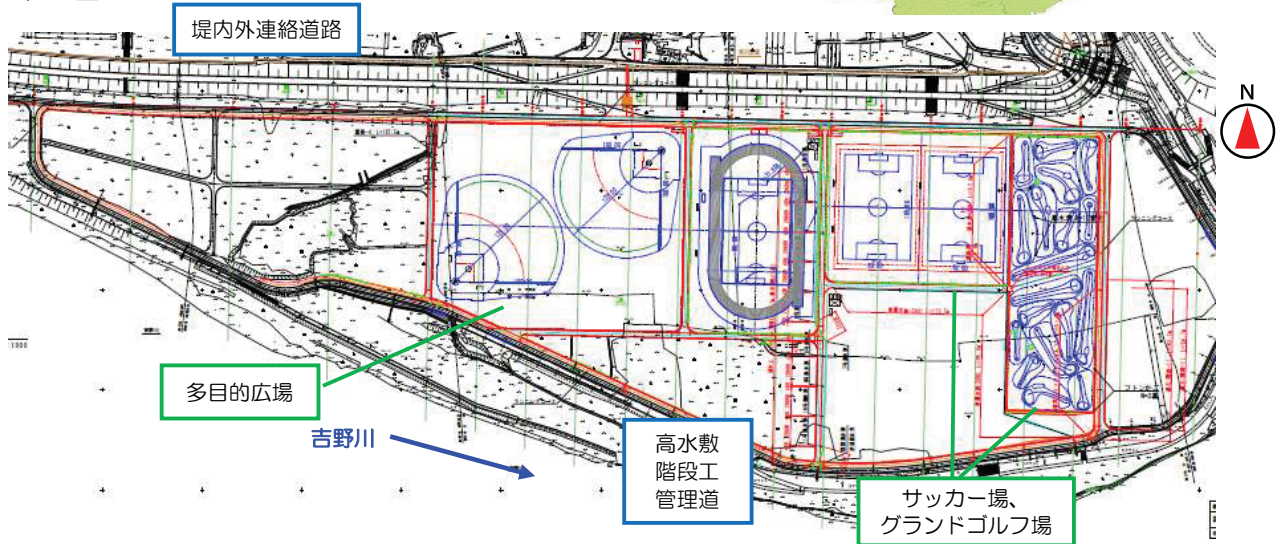
<主な整備の内容>

国土交通省：高水敷整正、階段、管理道 等
三好市：多目的広場、サッカー場 等

<位置図>



<平面図>



▲グランドゴルフ場



▲サッカー場



▲四国三郎の郷



小学生を対象に、川で安全に楽しく遊んでもらうため毎年行っているイベント「交流体験 in よしのがわ」（主催：吉野川交流推進会議）の中流編はこの周辺で実施しています。

また、隣接する「水辺の楽校」は、子どもたちの体験活動の場が拡大し、「川に学ぶ」体験を推奨する観点から、国土交通省が平成8年度より推進している「水辺の楽校プロジェクト」として整備を行いました。



▲交流体験 in よしのがわ（中流編）令和2年実施の様子

事例 3 今切川水辺整備（百石須地区）かわまちづくり（北島町／今切川左岸 11k 付近）

<事業の概要>

水上スポーツを楽しむやすい環境とすため、ボート用のスロープや階段護岸を整備し、水辺交流プラザのトイレは更衣室としても利用可能なように設計しています。

また、水辺交流プラザ敷地内にある休憩施設、アクアプラザには農産物の直売所も併設され、年間 1 万人を超える利用客で賑わいをみせています。

<主な整備の内容>

国土交通省：階段護岸、坂路、親水護岸 等
北島町：水辺交流プラザ、多目的広場

<位置図>

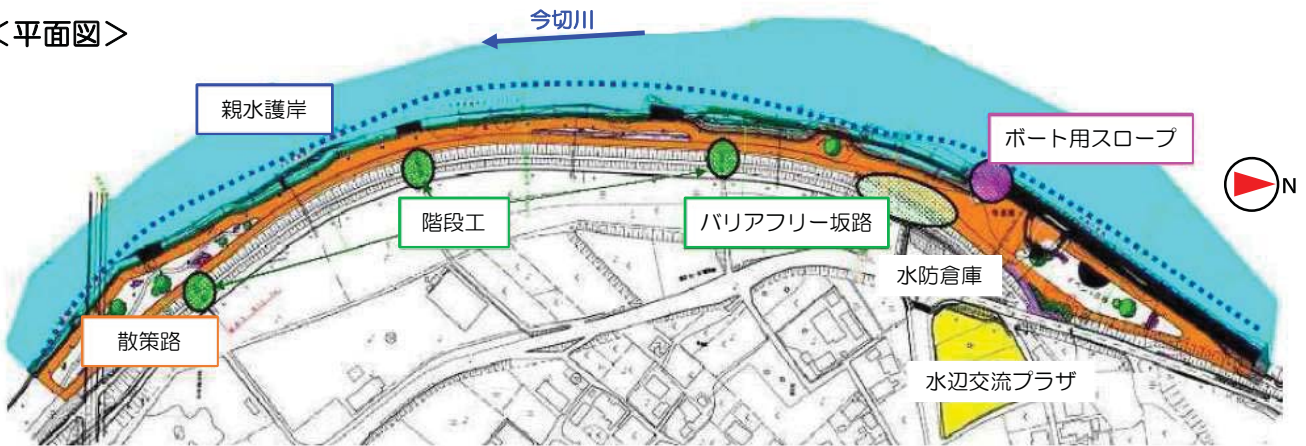


▲親水護岸



▲ボート用スロープ

<平面図>



市街地からもアクセスしやすい場所にあり、ボート用スロープや親水護岸が広く整備されているので、気軽に水上スポーツを楽しむことができる絶好の場所です！

今切川・旧吉野川は釣りの大会が行われることもあり、たくさんの釣り人が全国から訪れています。



▲アクアプラザ

事例4 ダム貯水池周辺整備の促進「早明浦ダム周辺地区かわまちづくり」



ダム貯水池周辺は、森と湖に囲まれた貴重な水辺空間であるとともに、地域コミュニティの場としても非常に重要です。吉野川上流に位置する早明浦ダムにおいても「早明浦ダム周辺地区かわまちづくり」計画が令和3年3月に登録されました。これから始まるかわまちづくりにもぜひ注目してください！

<事業の概要>

早明浦ダム周辺地域に位置する本山町、土佐町、大川村における振興計画では、さめうら湖や吉野川等の水辺を活用、拠点化することによる観光振興、地域間交流、地域活性化等を重要な施策として位置づけ、様々な取組が行われています。

この取組を充実させるため、本計画では、湖、川、村、森、道の5つの駅を拠点とした早明浦ダム周辺地域をつなぐかわまちづくりをコンセプトに、ダム周辺の豊かな自然資源を有効活用し、水源地域と受益地域の交流促進に資する水辺整備を2町1村と連携して実施し、地域全体の活性化に取り組んでいきます。

<位置図>



▲早明浦ダム



<整備イメージ>

湖、川、村、森、道の5つの駅を拠点とした早明浦ダム周辺地域をつなぐかわまちづくり

【基本方針】

- 3町村に点在する活動、情報拠点空間（3つの水辺拠点空間と2つの連携拠点空間）を強化し、早明浦ダム、吉野川の水辺利用の促進を図る。
- 拠点空間を核に、早明浦ダム周辺の豊かな自然資源とアクティビティのネットワーク化を図り、周辺地域全体の観光促進、活性化を目指すとともに、水源地域の役割や重要性の周知にもつなげる。

連携拠点空間「森の駅」

水辺拠点空間「村の駅」

水辺拠点空間「湖の駅」

連携拠点空間「道の駅」

水辺拠点空間「川の駅」

【ソフト施策】SUP・カヌー体験などのアクティビティ運営

【ハード施策】湖の駅周辺

- 森林公園の再整備
- さめうらカーテラス【スポーツ観光拠点施設】
- 湖岸施設(管理道・階段)の整備
- 赤：国整備
- 青：町整備

【ソフト施策】白滝の里と連携した山・湖イベントの開催

【ハード施策】カヌー練習場として合宿等の誘致

【ハード施策】川の駅(備全山公園周辺)

- 備全山公園の再整備
- スロープ整備
- 青：町整備

【ハード施策】川の駅(早明浦ダム直下)

- 修景植栽
- スロープ整備
- 赤：国整備
- 青：町整備
- 高水敷整備
- 赤：国整備

※今後、工事実施のための詳細な設計等を実施することにより、実施内容を変更する場合があります。

